

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分）

愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院

【地域において今後担うべき役割】（P14）

<基本姿勢>

当院は、平成 20 年の開院以来、尾張北部医療圏の北部地域（江南、大口、扶桑、犬山）における大規模・高機能の中核病院として、医療機能の向上、医療の質の向上、医療安全に努め、急性期から慢性期に至る医療を提供してきました。今後も地域住民が安心して生活できるよう、**現在の急性期を中心とした医療の継続を基本**とし、地域に必要な救急医療及び高度専門医療を十分に発揮し得る体制整備を進めるとともに、地元行政、地域の医療機関、福祉施設等との連携を強化し、JA 愛知厚生連の基本方針である「地域とともに地域を考え、地域医療を守る」ことを基本姿勢としていきます。

<入院機能>

2025 年における入院患者数予測は約 319 千名（2010 年対比 137% 86 千名増）となっており、現状の病床利用率・平均在院日数では病床数が不足する状況となります。しかし、前述のとおり尾張北部医療圏は、2025 年に医療需要がピークとなり、その後減少に転じることから、**当増床や現状の病床機能は変更せず**、病病連携・病診連携の推進により平均在院日数を短縮することで対応していきます。ただし、少子高齢化に伴う疾病構造の変化に対応するために、必要に応じて診療科毎の病床数を見直していく必要はあります。なお、増加する入院患者を受け入れるためには、最終的に平均在院日数を 9 日近くにまで短縮する必要があります。そのため、地域の医療機関との連絡会議等を設置して連携を密にしていくことで、退院支援体制を強化していきます。

<まとめ>

当院は、移転新築により高機能化を図り、大型の施設整備、医療従事者の確保、施設基準の取得等により診療機能の充実を図ってきました。医療を取り巻く環境は厳しいですが、2025 年に向け、少子高齢化に伴う医療需要の変化に対応すべく、必要な診療科を充実し、診療機能を確保することで地域の中核病院としての役割を果たしていきます。

【今後持つべき病床機能】（P14）

当院は、尾張北部医療圏の北部地域から尾張西部医療圏、岐阜医療圏の一部地域までの広範囲にわたる基幹病院として、急性期医療、高度・専門医療の更なる充実を図るとともに、質が高く安全な医療を提供していくことでこの地域の医療を守っていく使命があります。地域医療支援病院指定も視野に入れ、今後も現状通り、急性期を中心に地域の医療を担っていく方針に変わりはなく、病床機能の変更は考えておりません。平成29年9月1日より、療養病床54床を病床種別は療養のまま、地域包括ケア病床に転換し運用を開始しております。

【今後の方針】（P15）

	現在 (平成29年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	48床	→	48床
急性期	582床		582床
回復期	0床		0床
慢性期	54床		54床
(合計)	684床		684床

【その他の数値目標】（P15、P16）

① 医療提供に関する項目

○紹介率・逆紹介率

将来的に地域医療支援病院指定を目指し、地域医療ネットワークシステム「こうせいネット」の内容充実と地域医療情報システム「メディマップ」の導入により、地域の医療機関との連携を密にして、紹介率65%以上（H29.9 55.5% H28年度 50.3%）、逆紹介率40%以上（H29.9 52.9% H28年度 46.4%）を目標に、更に地域連携を強化していきます。

○病床稼働率

現状で90%以上を継続していますが、今後も90%以上を目指し、クリニカルパスの見直し、拡大により効率的な病床管理を行っていきます。

○手術室稼働率

H25年度 53.3%、H26年度 52.7%、H27年度 49.3%、H28年度 49.7%で、準備時間、入退室時間は除いているため50%前後を推移しています。簡単な手術や午前中の手術を増やせば稼働率は上がりますが、60%を超えると緊急手術など対応できなくなるため、今後も現状+ α 程度を目標としていきます。

② その他

「地域医療介護総合確保基金」については、平成29年度は医療従事者の確保に関する事業（病院内保育所運営助成事業及び新人看護職員研修事業）について利用いたします。